

政治地理研究部会設置申請書

2017年8月25日

1. 発起人（五十音順）

北川眞也（三重大、代表世話人予定）、麻生将（立命館大）、今野泰三（中京大）、畠山輝雄（鳴門教育大）、前田洋介（新潟大）、山崎孝史（大阪市立大）

2. 研究領域

本部会では、過去6年間の活動の成果と課題を踏まえて、重点的研究・活動領域として以下の6領域を設ける。

(1) 政治地理学の理論的・方法論的フロンティアの刷新

引き続き、欧米の政治地理学の成果を批判的に吟味し、独創的な領域論、境界論、スケール論、民主主義論、公共空間論、そしてジェンダー論の構築と分析方法の彫琢を目指す。

(2) 重層化する場所の政治

ローカルな政治（行政）が異なったスケールの政治過程といかに関わるかを検討し、それを通して、グローバル化時代におけるスケールの重層構造の再編過程を引き続き探る。

(3) 領域の管理とその超脱

グローバル化する世界において加速する領土の脱領域化と再領域化（たとえば、移民の越境、境界の偏在化、（脱）軍事化などを通じて）について引き続き検討する。

(4) 地政学の批判的検討

昨今、「地政学」を論ずる書誌の出版が相次いでいるが、なぜ「地政学」が欲せられるのか、その内容がいかなるものであるのかを、欧米のこれまでの「新しい地政学」などの成果をふまえつつ、批判的に検討する。

(5) 政治地理学的研究の国際交流の促進

上記研究領域での国際的な研究交流を促進する。

(6) 活動基盤の人的・財政的強化

他分野の組織・研究者とのネットワークを構築し、部会活動を財政的に強化するために発起人を軸とする、科学研究費補助金の申請も考えている。

3. 設置の趣旨

戦後の日本において政治地理学の分野は他の地理学の分野に比較して研究の発展が遅れてきた。しかしながら、冷戦の崩壊・グローバル化といった世界情勢の変化やポスト構造主義の浸透などによる権力関係への学問的注視によって、地理学においても政治への関心はこれまでになく高まってきた。こうした現状認識のもとに、本部会は2011年に人文地理

学会において初めての政治地理学関係の部会として設立され、政治地理学の理論的・方法的深化と研究フロンティアの開拓をはかり、日本における政治地理学的研究の更なる確立と普及を図るべく活動を続けてきた。これまで、3期6年間の活動実績を有するが、地理学以外の隣接分野の研究者、さらには外国で活躍する研究者の報告機会も設け、政治と空間・場所をめぐる研究のプラットフォームを創出し続けてきたと考える。加えて、発起人が編集・執筆に関わる『現代地政学事典』の出版を現在準備しており、プラットフォームとしての役割がさらに期待される。また引き続き、学生・院生ならびに若手研究者の関心が高まりつつあることが確認されるため、第4期目2年間の活動継続が望ましいと判断した。

4. 今後2年間の研究テーマと活動計画

本部会は、上述した6つの重点的研究・活動領域に沿って、人文地理学会大会の部会アワーを含む年4回の開催を基本とし、1期2年間の活動を企図している。

研究会の開催は関西地方を中心にしつつ、発起人の勤務大学・研究フィールドをベースに地方開催も企画する。そして、引き続き、若手研究者の育成と大学院生に対する政治地理学のアピールを意識した報告者構成と開催形態を配慮するとともに、政治学や政治社会学といった隣接分野そして他の研究部会との積極的な連携・共催を試みたい。